



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



日本再生は歯科からはじめよう

歯科病院長 岡野 友宏

皆様には新たな希望を胸に新年を迎えられていることとお慶び申し上げます。

歯学部ではオーストラリア、中国、米国の大学に引き続いてカナダのBritish Columbia大学UBCとの交流をはじめることとなりました。その主たる目的は学生交流、とくに選択実習electiveの場を確保することにあると考えます。Liverpool大学ではelectiveという学習形態がPBLカリキュラムの一環として生まれ、その学生2名が数週間歯科病院で美容歯科について学びました。6~7年前のことです。進んだ歯科医療に加えて、英国だけではなく外国の医療や文化を知ることが目的としました。その後、オーストラリアAdelaide大学や香港大学、南カリフォルニア大といったPBLを先駆的に採り入れた大学から昭和を訪問する学生が増えました。UBCも古くからPBLを導入した歯学部ですから本学を訪問する学生を期待します。

一方、昭和の学生たちもこれらの大学の選択実習に参加してきました。残念なことはこうした実習に参加する学生が増えるどころか、むしろ減少していることです。単に言葉の障壁だけではなく、日本社会全体に蔓延する内向き志向にその原因があるようです。私たちにあって使いやすいものとして進化した携帯端末は、かえって日本を世界標準から離れさせ、携帯端末の国際競争力を失わせたといえます。いわゆる「ガラパゴス化」ですが、私たちが便利であればいいという内向き志向は日本人の心の底に深く浸透しつつあります。同様に医療制度は日本の社会保険医療制度の下、特異的ともいえる制度です。ここでは新たな医療サービス制度が導入されても、これを活用する場がないという現象が生じます。外資導入などはもっての外と拒絶されます。この内向き志向は私たち医療人教育において、例えば社会科学や芸術は医療人に無用だからといって教養科目から外すといったことにまで及びます。



さて、私は10数年前、インド南部のBangaloreで開催されたインド歯科医学会に招かれこの町を訪れました。すでに世界のIT産業の中心地として米国から多くの企業が進出していました。一方でインフラ整備は追いつかず、庶民の生活のリズムはマハラジャの時代と変わっていないと感じました。しかし3年前に訪れた時、空港は近代化し、聖なる牛も人を満載した古びたバスも雑踏からその姿を消していました。深夜でも多くのレストランが開いており、これはIT産業で昼夜の区別なく働く若者のためだと説明されました。評論家 Thomas Friedmanをして”Honey, I think the world is flat”と言わしめたのも、彼がこの町のインド企業 Infosysを訪ねたところから始まります。私と同行した歯科技工士はすでにこの町で普及していたジルコニアセラミックスについて尋ねられタジタジになっていました。彼らは広大な歯科技工所の建設現場に私たちを連れて行きました。ここでセラミックス技工を受け入れる予定です。デジタルの時代、いずれは世界を相手にする歯科技工企業に成長するかもしれません。なにしろ24時間いつでも世界とフラットに向き合う休まない町ですから。

学生諸君に今言いたいこと、目の前に迫った生化学や病理学などの試験を徹底的に勉強なさい！丸暗記でもいい、ひとりで頑張ってみなさい。そして100点をとってみなさい！すべての話はそこから始まります。今までできなかったことを実現すること、しかもひとりでそれを達成することが大切です。がむしゃらな勉強によって学ぶ方法を学び、もっと考える必要があることに気づき、必要なものと無用なものや不純なものを鑑別する能力が自然と身につきます。そして何よりも熱意と好奇心が芽生えてきます。優れたスポーツ選手もすべてこういう体験をしてきました。こうなれば科学や文学、芸術への憧れが助長されUBCの学生たちと人生そして歯科の未来を語れるようになります。単なる医療人ではなく、公平に開かれたフラットな国際社会に通用する常識人が形成されます。これこそが日本再生に絶対に必要な人材です。私たち教員の務めは学生たちに様々な機会を提供し、いつでも受け入れる準備を示しながら、一方で余計なおせっかいを自重し、その古びた価値観を強要しないことです。そして、医療人・大学人としての私たちのあるべき姿を学生たちに示すことです。



教授(員外)就任にあたって

口腔解剖学講座 江川 薫

この度、昭和大学歯学部口腔解剖学講座教授(員外)に就任させて頂くことになりました。

私は、千葉大学大学院理学研究科生物学専攻を修了して、昭和52年の昭和大学歯学部の開設時に第一口腔解剖学講座(現 口腔解剖学講座)に入局しました。主な研究テーマとして、頭蓋骨の力学的構造を骨基質線維の構築を中心に観察してきました。さらに骨の補強構造のメカニズムを形態的に検討し、頭蓋骨を中心にして種々の部位についての肉眼的構造と微細構造との相互関係を研究してきました。



解剖学の教育で最も必要なことは、解剖学実習のための御遺体の収集に関することです。御遺体の収集は歯学部開設直後には、役所や関連病院などに協力を依頼したものの、年間3体の献体でした。昭和53年に献体団体である白菊会本部に加盟して、昭和大学歯学部支部が設置されました。白菊会に加盟してもしばらくの間は献体数が少なく、司法解剖済みの御遺体なども用いて解剖学実習をなんとか行うことができました。当時は1体の御遺体を学生10名以上で解剖し、さらに司法解剖済みの御遺体の解剖では胸腹部の臓器の観察ができないというような実習の中で、教室員と学生が共に努力して実習を行っていました。その後白菊会の会員数も増加し、現在では物故者も含め1000名を越え、毎年行われる解剖学実習に十分な数を確保できるようになりました。長年、白菊会会員の入会登録や、白菊会総会などにおける会員との会合および献体時の御遺族との連絡等を通して、解剖学の教育と白菊会の発展に貢献したとして、このたび白菊会連合会より感謝状をいただきました。まことに名誉なことと感謝いたしております。

今後とも、御指導、御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

診療統計(平成23年12月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	18,730	814.3	772.5	792.2
入院患者	523	16.9	9.9	13.3

第2回歯科医学教育者のためのワークショップに参加しました

口腔病理学講座 美島 健二

本ワークショップは平成23年12月8日～12月11日の4日間、富士の裾野に位置する富士教育研修所で開催され、全国の歯学部・歯科大学より35名、また、臨床研修施設として指定された歯科医院より7名の計42名が参加しました。ワークショップでは、5つのグループに分かれ「現状の歯科医学教育の問題点」をテーマにディスカッションが行われました。その中で、私どものグループでは、現行の教育システムが、必ずしも時代に即した適切なものではないということの問題点としました。そこで教員が現状に即した適切なカリキュラムを策定する能力を身に付ける必要があると考え、教育システムを開発する能力を養成する目的でコース設定を行い、具体的な学習方略および評価方法の作成法を検討しました。この過程で、カリキュラム作成をスムーズに行うために必要な手順を学ぶことが出来たことは大変有意義であったと思います。また、研修期間内に行われた講演では、



ゆとり教育世代の特徴や成績下位学生を「深海魚」にみたてた岩手医科大学の佐藤教授の講演は大変勉強になり、この深海魚状態も学習態度を変革する事により脱却することが可能であることを認識することが出来ました。

今回、初日は小雨が降る生憎の天気でしたが、3日目、4日目と晴れ渡り素晴らしい富士山の姿を眺望することが出来ました。今後、このワークショップで得られた経験を大学教育に役立てていきたいと考えております。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 2月1日: 歯学部4年生共用試験 CBT
- 2月4日、5日: 第105回歯科医師国家試験
- 2月18日: 大学院歯学研究科Ⅱ期入試
- 2月19日: 歯学部4年生共用試験 OSCE
- 2月26日: 歯学部選抜Ⅱ期入試・センター試験利用Ⅱ期入試・編入Ⅱ期入試
- 2月29日: 歯学部4年生共用試験 CBT 追・再試
- 3月8日: 歯学部4年生共用試験 OSCE 追・再試
- 3月15日: 卒業式
- 3月16日: 大学院歯学研究科修了式
- 3月19日: 第105回歯科医師国家試験 合格発表

「昭和大学被災地入学者のための高須奨学金」を募集します

歯学部学生部長 上條 竜太郎

本学では、客員教授高須克弥氏(医学部形成外科学美容外科学部門寄付講座・本学医学部卒業生)の寄附金により、東日本大震災の被災地からの平成24年度入学者を対象とした奨学金給付制度を設け、募集することとなりました。本奨学金は平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって、経済状況が急変した被災地からの入学者に対して、経済的不安の緩和、経済的支援、教育の機会均等提供を目的として給付するものです。

給付対象者は、岩手、宮城、福島県内の高等学校を卒業し、本学各学部および医学部付属看護専門学校の平成24年度1年次に入学する学生で、給付を希望する方です。給付額は各学部が100万円、看護専門学校が50万円です。申請手続き等の詳細については、教務部入学支援課(03-3784-8026)にお問い合わせ下さい。

第5回医療コミュニケーションファシリテータ養成セミナーに参加しました

歯周病学講座 宮澤 康

平成23年12月10日、11日の2日間、名古屋の邦和セミナープラザに於いて医療コミュニケーションワークショップが開催され、参加してまいりました。本ワークショップは歯科医療者の卒前教育・卒後研修における教育指導能力を向上させるために企画されました。共用試験で定着しているOSCE技法は「あいづち」や「共感的態度」など、とかくコンテンツを行うだけのマニュアル教育になりがちですが、患者さんに真の信頼感を与えるいわゆる心のこもった“おもてなし”は、よく「あうんの呼吸」とかと表現されるようなコンテキストといわれる要素が大事であり、悩みを抱えた患者さんと円滑なコミュニケーションを確立するためのカリキュラムを作成する場合、患者の心理や共感部分を意識するような行動目標を盛り込んだものでなければならないということでした。そのためには学生が行う医療面接のロールプレーのシナリオを作成する場合、意図的にエンドポイントを見つけにくいものの方が効果的ということで、実際にSPさんに演技指導を行い、学生役、ファシリテータ役、評価者役および学生の同僚役まで設定して行う難しいロールプレーを体験しましたが非常に有意義な研修でした。



避難訓練が実施されました

防災委員 中村雅典

平成23年11月21日16時より、東日本大震災における甚大な被害を踏まえ、東京湾北部を震源とする震度6強の大規模震災を想定した避難訓練が実施されました。



当日はあらかじめの指示に従い、学生・職員は中庭、上條講堂前、1号館裏の公園の3か所の避難場所に速やかに避難することが出来ました。避難後は各部署の報告者が、避難場所での避難前の在室人数と避難者数を確認し、本部に報告するという流れで行われ、避難者は学生・職員合わせて1,196人でした。今回は訓練ということで無事に避難できましたが、万が一の震災に備え、ひとりひとりが日ごろから防災への意識を高め、いざという時には慌てずに行動することを心がけましょう。



学生生活指導のための教職員ガイダンスが開催されました

歯学部学生部長 上條 竜太郎

平成23年11月29日、上條講堂で「学生生活指導のための教育職員ガイダンス」が開催されました。本ガイダンスは、指導担任をはじめとして、日頃学生教育にご尽力いただいている先生方を対象として、学生教育に関する最新の話題や諸問題、参考となる事例等をご講演いただくもので、平成17年より毎年開催され、本年度で第7回となりました。本年度のガイダンスは荒川 英俊学生部長(薬学部・教授)の開会の辞、片桐 敬学長の挨拶に続き、佐々木 司先生(東京大学大学院教育学研究科)が「大学生のメンタルヘルス:東大保健センターでの経験より」との題で、大学生によく見られる精神疾患、大学生の環境への適応と生活の適応等についてお話いただきました。引き続き、山口 淳課長(人事部人権啓発推進室)より、「指導担任のためのキャンパス・ハラスメントガイド」と題して、教育現場でのハラスメントの現状と対応についてお話いただきました。いずれも日々の学生教育に直結する興味深いお話しで、非常に有意義なガイダンスとなりました。

昭和大学公開シンポジウム「チーム医療を実現する体系的学士過程の構築について」が開催されました

歯学教育学講座 片岡 竜太

本学は平成18年度から、チーム医療学習の一層の拡充を目指し、全学的にカリキュラムの改善・整備を進め、文部科学省の「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」(平成18～20年度)および「大学教育・学生支援推進事業」の「大学教育推進プログラム」(平成21～23年度)の支援を受け、全学部、全学年にわたる学部連携教育カリキュラムを構築しました。学部連携学習では、学年に従って体系的、段階的に学習の場と内容を広げ、参加学習により確実にチーム医療に必要な能力を習得する学習になるように工夫しています。

表記のシンポジウムが12月18日(日)、13時から旗の台校舎4号館500号室において年の瀬にも関わらず文部科学省や学外からの参加者も多く参加して開催されました。片桐学長の挨拶に続いて、各学年で約600名の学生を対象に行っている教育の実際について講演が行われました。「初年次学部連携型の初年次体験実習・PBLチュートリアル」を富士吉田教育部教育推進室の倉田知光教授、D3が参加する「臨床シナリオPBLチュートリアル」とD4が参加する「病棟実習シミュレーションPBLチュートリアル」を歯学教育推進室の片岡竜太教授、D5が参加する「学部連携病棟実習」を薬学教育推進センターの木内祐二教授、D6の選択実習で参加する「学部連携アドバンスド病院実習」を医学教育推進室の高宮有介講師、「学部連携地域医療実習」を口腔衛生学の向井美恵教授が担当しました。

最後に医学、歯学、薬学部5年生と保健医療学部看護・作業学科4年生、理学療法学科3年生が実際にチーム医療教育を受けた感想を発表して、会場の参加者の質問に答えました。いずれの学生もチーム医療教育をうけた経験をポジティブにとらえており、「学部連携病棟実習」が充実しており、有意義であったことと1年生からの学習経験が生きていることに改めて気づいたことを話してくれました。岩手医大の中居賢司教授と慈恵医大の福島統教授から全国の大学のお手本となるカリキュラムであり、将来的にチーム医療とその学習が当たり前実践される大学になって欲しいという講評をいただきました。今後も教育推進室が中心となり、力を合わせてさらなるチーム医療教育の充実を図りたいと思います。



南カリフォルニア大学グレン先生と研究打ち合わせを行いました

歯科補綴学講座 馬場 一美

平成23年12月に南カリフォルニア大学(USC)、グレン・クラーク先生のラボを訪問して来ました。クラーク先生はOral medicine & orofacial painの教授で皆さんご存じのように一昨年の7月から12月まで昭和大学歯学部にて客員教授として滞在されました。また、彼の研究室には当講座の小野康弘先生、小児歯科の小野洋子先生が留学中です。さらにはResident(有給)として本学を卒業した安藤先生が研修しております。今回の訪問の目的はUSCと共同で推進している1)Virtual Patient Program, 2)睡眠時無呼吸の循環器系への影響についての前向き研究, 3)睡眠時ブラキシズム治療薬のRandomized Clinical Trialについての打ち合わせで、非常に多岐にわたる内容について話し合ってきました。特にVirtual PatientのプログラムについてはUSC全学の先進教育の責任者である磯山先生(日本人)も参加していただき、USCで推進している医学部への展開、さらに医療過誤防止プログラムへの応用など、本学でも今後の方向性として考慮すべき内容について意見交換をしてきました。クラーク先生と話していると、食事をしていようが歩いていようが常にいろいろな新しいアイデアが飛び出してきて、相も変わらずお元気そうでした。彼が企画したオンラインのマスターコースが今年立ち上げとなる予定で、世界中からすでに応募者が集まっているとのこと。近いうちにまた昭和にお招きしたいと思っております。

受賞

広報委員長 井上 富雄

- ・高橋 那奈 歯科補綴学講座 大学院4年
平成23年度 社団法人日本補綴歯科学会
東京支部総会第15回学術大会 優秀口演賞
「グラフト重合MPCコーティングによるデンチャーブラークの付着抑制に向けた基礎的研究」

昇任・採用

広報委員長 井上 富雄

- ・八幡 祥生 助教 歯内治療学講座

編集後記

口腔解剖学講座 野中 直子

2012年が幕を明けました。昨年は東日本大震災が起こり、今年は復興元年といわれています。チーム医療を目指す昭和大学、日本に元気を与えられるように4学部の絆を深め、力をひとつに頑張ってください。原稿執筆をいただいた先生方に深く感謝いたします。「頑張ろう！日本！頑張ろう！昭和大学！」